



ノーベル賞受賞 大村智先生より絵画を寄贈していただきました

総務課

先にノーベル医学・生理学賞を受賞された山梨大学特別荣誉博士 大村智先生より「夢絵の力で、患者さんをはじめ病院を訪れる人々に勇気と希望を与えられたら」という趣旨から、絵画作品2点を寄贈していただきました。

1点は、赤や黄などの原色を大胆に使った力強い作風が特徴で、大胆な構図、明るい色彩、パワー溢れるもので、富士や華太陽を描く独自の世界が有名な、櫻井孝美先生の「富嶽・輝」という作品を、患者さんや来院される多くの方々にご覧いただける外来ホールに設置いたしました。

もう1点は、青色を基調とする作品を多く発表し「ぬいブルー」「青の画家」と称される、佐野ぬい先生の「午後の青い視点」という作品を、新病棟1階エレベーターホールに設置させていただきました。

それぞれの作品が、病院を訪れる患者さん、そのご家族に勇気と希望を与え、一日も早いご回復につなげられるものと確信しております。



櫻井孝美先生作【富嶽・輝】



佐野ぬい先生作【午後の青い視点】

ロボット手術、ダヴィンチの実績と今後の展開について

泌尿器科 科長 武田 正之

米国 Intuitive 社によって開発された内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ®」を用いた手術の特徴は、3Dモニターの精度と手術アームの操作性が極めて優れており、従来の腹腔鏡下手術では不可能であったような精細な手術が可能となります。ロボット支援手術のなかで、ロボット支援腹腔鏡下前立腺癌根治術(以下RALP)が2012年4月に健康保険適用となり、本院では2013年4月に当時の最新型機種である「ダヴィンチ Si®」を導入して、2016年10月の時点で140例以上のRALPを実施しました。RALPでは前立腺周囲に走行している神経血管束(男性機能や尿道括約筋機能に関連)を温存することによって術後の尿失禁や男性機能の保持や早期回復が得やすく出血も非常に少ないことから、自己血を含めてほとんど輸血をしていません。

また、2016年4月からは腎腫瘍に対するロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術(以下RAPN)も健康保険診療として実施できるようになり、本院では2016年12月末までに15例程度を実施する予定です。従来の腹腔鏡下手術と比較したRAPNの特徴は、腎機能の温存と正確な腎縫合操作が可能となります。実際にRAPN初期5例の腎動脈阻血時間は平均で13分程度であり従来法の平均30分と比較してはるかに短縮され、長期的な腎機能維持が期待できます。



山梨大学医学部附属病院ダヴィンチチーム

リウマチ膠原病センターを設置しました

リウマチ膠原病センター長 波呂 浩孝

この度本院では、山梨県内のリウマチや膠原病の患者さんに大学病院においてリウマチ専門医による専門的治療を受けていただくことを目的に、10月1日よりリウマチ膠原病センターを設置し、診療を行っております。

センターは整形外科、内科(糖尿病・内分泌内科、腎臓内科)、皮膚科の3診療科で構成され、3診療科による合同診療外来の時間を設けるなど、相互の緊密な連携体制が構築されています。これまで、整形外科や内科(糖尿病・内分泌内科、腎臓内科)あるいは皮膚科において、別々に診療を受けておられた患者さんに、センターの3診療科において併診して診療を行うことで、今まで以上に包括的かつ専門的な医療が達成できることになりました。このような体制は**全国初**となります。

1) 受診について

初診患者の対応は、毎日受付けています。3診療科のうち、どの診療科に受診したら良いか判断しにくい場合には、リウマチ膠原病センター宛ての紹介状をいただければ、曜日毎に配置されたセンター担当医師が、どの診療科で最初に診療を受けていただくかを決定し、検査・治療を進めていきます。

2) 入院について

疾患と治療内容により各診療科で入院管理を行います。毎週開催されるカンファレンスなどで、3診療科で連携を図って診療を行います。

糖尿病学習コーナーを設置しました

糖尿病・内分泌内科、腎臓内科 一條 昌志、堤 貴大

糖尿病教育入院は、糖尿病特有な入院形態です。糖尿病教育入院の目的の1つは乱れた生活指導の改善です。現在、薬だけでは糖尿病のコントロールができず、生活習慣を改善しなければ、治療の効果が見られません。本院の糖尿病教育入院では、糖尿病教室を数回催し、患者さんに勉強していただいています。これまでは、講義形式で一斉に指導を行っていましたが、しかし、学校教育などと異なり、患者さんの年齢・理解度・関心に大きく幅があります。

そこで、「糖尿病学習コーナー」は、集団学習の他に患者さんが自ら勉強する場所の提供を趣旨に設置しました。これは、写真にあるようにデイルームに、糖尿病関連の一般書籍をディスプレイし、患者さんが自由に閲覧できるコーナーとなっています。ノートにメモを取るなど熱心な患者さんを目にすることがあり、お見舞いにいらしたご家族などにも活用していただいています。また、「たまねぎで糖尿病が治る」など極端な内容の書籍も、あえて並べています。これには、根拠が乏しいことを医療者目線からのコメントとして書籍に記載し、患者さんに正しい情報が提供できるように努力しています。ご興味のある方は、ぜひ足を運んでみてください！



小児科病棟に人形劇がやってきた

小児科 沢登 恵美

今年、がんの子供たちを守る会関東支部の主催による、人形劇が数年ぶりに開催されました。今回は、やまいも人形劇団による「象の鼻はなぜ長い」という題で、新聞紙のちぎり話から始まり、鼻の短い、知りたがりの子象が、ワニにだまされて食べられそうになるけれど、鼻をかまれて伸びてしまったため、かえって便利になる、というお話でした。照明で鮮やかな人形たちと、操る人形師の口上が、とても明瞭で、楽しく、乳児から保護者まで楽しい時間を過ごすことができました。病棟の入院患児さんも、参加可能な病状の方も比較的多い時期でよかったと思います。がんの子どもたちを守る会の方からは、創立10年を経て、ボランティア団体からのまとまった補助も終了となり、援助活動は以前ほどたくさんはできなくなっているとのことでした。景気が悪いといわれてから久しく、日本ではボランティアが社会の中で必ずしも確立された位置づけではないことから、活動も容易でないことが推察されます。そのような中、山梨まで活動を広げてください、本当にありがたく思います。このような大掛かりなボランティアから、他にもたくさんの方々の交流の機会をいただいております。長期入院で、制限されている子供たちの学問、音楽、社会の教育の機会を提供していただき、感謝します。



子供用車椅子の寄贈

管理課

平成28年8月28日に、チャールズプロジェクトから子供用車椅子を2台寄贈していただきました。

チャールズプロジェクトでは、「チャールズ！ハートをさがす」という絵本の売り上げ収益を子供用車椅子の普及にあてる活動をしています。今回、縁あって本院に子供用車椅子とバギーを各1台ずつ寄贈していただきました。寄贈された車椅子は、3西のスタッフと共に必要な性能を検討の上決定し、贈呈式では、藤井病院長からプロジェクトへの感謝の言葉と、代表して篠原羽蓮（ゆいれん）さん【中央】に感謝状が贈られました。



3西病棟では、車椅子を活用し患児の皆さんの療養環境改善に役立てることにしています。

身障者補助犬の受入れについて

医事課

本院では、身体障害者補助犬の受入れを許可しています。以下の点にご留意いただき、何か問題がありましたら、職員までお知らせください。

- ※ 補助犬は、適切な健康管理と予防対策を講じられた犬であり、補助犬使用者がきちんと行動管理をしていますので、他の患者さんに迷惑をかけるようなことはありません。
- ※ 補助犬使用者がハーネスや表示をつけた補助犬を同伴している時、補助犬は「工作中」ですので、そっと見守っていただきますようお願い致します。

「お仕事です。
声をかけたり、触ったり、
じっと見つめたりしないでね。
お水や食べ物も与えないでね。」



院内イベントの活動報告

総務課

七夕コンサート

患者様が願いを込めたたくさんの短冊が飾られた玄関ロビーに、音楽アンサンブル～Parfait（パルフェ）～の皆さんの美しい音色と、医学部交響楽団の迫力ある演奏が響き渡りました。



納涼花火大会

室内での開催となりましたが、ヨーヨー釣りや輪投げなどのゲームに熱中する患者様・ご家族の笑顔がたえないお祭りになりました。暗くなった頃には外へ移動して、手持ち花火と打ち上げ花火で夏気分を満喫していただきました。



院内学級音楽会

本院院内学級の児童・生徒10名が参加し、楽器の演奏や合唱を披露しました。子ども達は、練習の成果を大いに発揮し、保護者の皆様や病院スタッフから大きな拍手を浴びていました。



本院診療科のご紹介

循環器内科、呼吸器内科

循環器内科・呼吸器内科は、胸の圧迫感・痛み・重苦しさ、息切れ・呼吸困難、動悸、失神や意識が遠のく等の症状がみられた時に受診していただく診療科です。これらの症状は、狭心症または心筋梗塞、心不全、不整脈などの心臓病、または肺の病気（肺炎、肺癌、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患等）の可能性がります。心臓および肺の病気は直接生命に係わる可能性が高く、とくに心臓病は一刻も早く対応すべき疾患が多いため、本院では当科を中心とした循環器救急センターにて、いつでも緊急対応しておりますので、遠慮なくお問い合わせください。また、循環器内科は動脈硬化症という血管の病気も扱っています。足の冷感・しびれ、歩行時の下肢疲労・筋肉痛、あるいは足の傷が治りにくいといった症状は、閉塞性動脈硬化症という足の血管が詰まっている可能性がありますので、お気軽にご相談ください。

本格稼働した新病棟には県内唯一のハイブリッド手術室を備えており、循環器内科はハート（心臓）チームの一員として、外科的開胸術が困難な重症弁膜症（大動脈弁狭窄症）に対する新しい治療法である経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）を担う予定です（年内に施設認定取得を目指しております）。もうひとつ大学病院でしか行えない治療に、高速回転冠動脈アテレクトミー（ロータブレード）があります。これは、冠動脈の中が非常に固いもの（石灰化）でつまっていて、バルーン治療だけでは掘ることができない場合に使用します。カテーテル先端の小さなドリルを高速回転させることで、固いものを削ることができます。

他の医療機関にてこれらの病気を疑われた、あるいは確定診断されて治療が必要だと言われた等でも構いません。ご相談したいことがありましたら、お問い合わせください。

整形外科

整形外科は主に脊椎脊髄や四肢を扱う診療科です。社会の高齢化に伴い、ますますそのニーズは高まっており、当科においても患者数、手術件数は増加の一途をたどっています。大学では脊椎グループ、小児・関節グループ、腫瘍グループ、手外科グループに大きく分かれており、これらを簡単にご紹介します。

・**脊椎グループ**：脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニアなどの脊椎疾患の治療を行います。高齢者の脊柱変形矯正手術などの難易度の高い手術が増加傾向にあるのが特徴で、これらの手術も脊椎モニタリングやO-armを用いたナビゲーションシステムを利用して安全に行えるようになっています。

・**関節グループ**：変形性関節症に対して人工関節置換術を200件/年程行っています。また、多くの関節リウマチ患者様が通院されており、最先端の保存治療、手術治療が行えるように努めています。また、先天性股関節脱臼など小児整形疾患についても最先端の治療が行える態勢を取っています。

・**腫瘍グループ**：骨組織と軟部組織に発生する腫瘍の治療を専門としていて、県内または県外の病院から紹介された患者さんについては、積極的かつ迅速に受け入れて診断・治療を行っています。また、癌研究会有明病院とも連携しており、最先端の治療が可能となっています。

・**手外科グループ**：手外科専門医が上肢の炎症性疾患、変形疾患、神経絞扼性障害、外傷などの診療を行っています。顕微鏡を用いた神経や血管の縫合、組織再建も積極的に行っています。